※令和４年度以降入学生用

学校番号	４１０

令和５年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書Ⅰ　（光村図書）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道ではさまざまな用具用材による表現の違いなどを学びます。
・楷書・行書という異なる書体を通し、用筆の違いを感じることで筆の弾力を使いこなし、自分の想いに適った文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する用具･用材の特性を理解し、表現方法に伴い適切に使用することができる。 書を構成する要素とその表現効果の視点から、作品を深く理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について特質に即して理解したり、臨書することができる。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、積極的に表現することができる。 書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えるなどして、書表現を創造的に味わったり、作品の価値を考えるなどして文字や芸術としての書の伝統と文化について幅広く理解したりすることができる。	書が身近なものであることを実感し、書に関心を持って、主体的に表現や鑑賞しようとしている。 主体的に書の幅広い活動に取り組み、感性を高め、書の伝統と文化に親しもうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写と書道	・国語科書写と芸術科書道の関連と差異 ・楷書の基本用筆	a：国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫することができる。 b：姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 c：書写と書道の類似点・相違点について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。	作品	作品 ワークシート	観察
	楷書の学習	・孔子廟堂碑の臨書 ・九成宮醴泉銘の臨書	a：古典をよく観察し、特徴を意識しながら書いている。 古典の書風を捉えて、的確に表現することができる。 b：用筆や字形と、書風が密接に関係していること理解することができる。また、その表現方法や時代背景・筆者の感情など深い部分についても考察することができる。 c：古典に関心を持ち、その知識を得ようとしている。	作品	作品 ワークシート	観察
二学期	行書の学習	・行書の基本用筆 ・蘭亭序の臨書	a：古典をよく観察し、特徴を意識しながら書いている。 古典の書風を捉えて、的確に表現することができる。 b：用筆や字形と、書風が密接に関係していること理解することができる。また、その表現方法や時代背景・筆者の感情など深い部分についても考察することができる。 c：古典に関心を持ち、その知識を得ようとしている。	作品	作品 ワークシート	観察

※令和４年度以降入学生用

	漢字仮名交じりの書の学習	・線質による表現 ・構成による表現	a: 漢字仮名交じりの書では表現する言葉が大事であることを理解し、自らの創作に活かすことができる。 b: 表現を構想し、それを表現するための工夫を考え創作することができる。 c: 漢字仮名交じりの書の創作の意義について理解しようとし、今まで習得した知識・技術を自らの創作に活かそうとしている。	作品	作品 ワークシート	観察
三学期	仮名の書の学習	・仮名の基本用筆 ・高野切第三種の臨書	a: 仮名の書の表現を理解している。また、 仮名の基本用筆の特徴について理解し、仮名の基本用筆を身につけ、リズムをつかんで表現することができる。 b: 仮名の書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想することができる。作品の書の時代背景や伝統と文化の価値などを深く考察することができる。 c: 仮名の書に興味・関心を示し、その知識や技術を得ようとしている。	作品	作品 ワークシート	観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度